
フィクシー

旋風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フィクシー

【Nコード】

N7352Z

【作者名】

旋風

【あらすじ】

中学生 佐々木 一也は

ある冬の日、友人の雨森の家に向かって歩いていくとある男がぶつかった。

その男こそ一也の人生を変えた人物だった。

プロローグ（前書き）

どうもこれからこの小説を書いていく旋風です
よろしく願います m (_) m

プロローグ

しょう「はぁ・・・今日も暇だな」

佐々木 一也は川の堤防で腕を組みねっころがっていた。風が吹き、茶色の髪の毛が揺れ、その目に映るのはすがすがしい空の色だった。

すると向こうから自転車をこぐ音が聞こえ

その自転車は一也の方に向かってき、キィーと音をたてた

「一也こんな所にいたのか」

一人の黒色で短髪の少年が自転車を降りて一也を見る

「なんだ雨森あめもりか」

一也は体を起こして、大きなあくびをした。

「俺で悪かったな」

雨森は不機嫌そうな顔に変わった

「まあそんなに怒るなよ、それより俺に何のようだ？」

「今日はクリスマスだろ、だからパーティーしようかと思ってな。」

だからお前を誘いにきたんだ」

「そんなの、いかねえーよ」

一也は立ち上がって歩こうとした。

「お前の大好物のモンブランのケーキも用意するぜ」

一也の動きがピクリと止まった

「本当か？」

「ああ。本当さ」

「なら行ってやってもいいぞ。」

「じゃあ彩夏^{あやか}達も誘っとくぞ」

「わかった」

一也はうなずいた

「今日の夜7時に来いよ」と言って自転車をこぎ、走っていった

「さて俺も帰るか・・・」

足を動かそうとした瞬間、一也は目眩を起こし、
視界が真っ暗になった

（なんだこれは……。）

「レイン頼むぞ」

（誰かの声が聞こえる！？）

「ああ、わかった。かならずあいつを見つけてくる」

一也の視界が元にもどった

（今のは何だったんだ……？）

「まあ、ここで考えていてもしかなねえな、帰ろう」

一也は再び歩き始めた。

（あの声どこかで聞いたことがある気がする……誰だっけ？）

ドン

一也は男とぶつかってしまった

「すまない……」

男が謝って来た

「こちらこそ、すまねえ」

一也が顔を見上げると・・・

「雨森？」

「人違いだ。」

と言って男は走って行った

（あいつどう見ても雨森だ・・・）

一也が腕時計を見ると6時59分だった

「早くしねえとモンブランが無くなる・・・」

ドォーン

急に爆発音が聞こえてきた

「爆発だ！」

別世界からの来客者

「なんで、こんな時に。」

一也は爆発音のする方向へ走って向かい、燃えているビルの前まで移動した。

そこで一也が目にしたのは大きな怪物だった

「なんだよあれ・・・」

その姿は狐に近く、赤々と燃えていた。

それを見た一也は辺りを見回し、鉄の棒を見つけ、手に取った。

（こんなもんで倒せんのか・・・？）

「やるしかないな」

鉄の棒を握り締め怪物に振りかかった。

しかし怪物の動きは速く、体をかすただけだった。

「ゴオオオオオオ！」

怪物は一也に向かって突進してき一也は避けようとしたが、避けきれず壁に叩きつけられた。

「痛ってえ、肋骨2，3本折れたんじゃねえか」

怪物が近付いて来た

（ここまでか・・・まあこんな最後でもいいか・・・）

一也が最後のあがきに鉄の棒を振ると、
その鉄の棒は大きな剣に変わった。

（何だこれ形のわりにはぜんぜん軽いぞ。
これなら倒せるかしんねえな）

一也が立ち上がり剣を握り締め切りかかった。

怪物は後退さったが剣の真空波の様な物は避けられなかった。

「そこまでだ」

一也が振り向くと雨森の姿があった

「雨森!？」

「自己紹介が遅れたな、俺はレインだ」

「一也はさっきの目眩をの事を思い出した」

「お前はいったい何者なんだ？」

「パラレルワールドって知ってるか？」

「別世界の事だろ」

「そうだ。その別の別世界から来た者だ」

「別世界から来た物がなんで俺なんか助けんだ？」

「お前は選ばれたんだ、俺の世界の王から」

「俺が？」

「そうだ、その証拠にそのでっけえ剣使えていたじゃねえか」

「それは昔剣道習ってたからだ」

「でも俺の世界ではそんな剣振り回すのに2, 3年はかかるぞ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7352z/>

フィクシー

2012年1月12日20時48分発行